

大地の恵と海の幸 持続可能なまちへ



中泊町長
濱館 豊光

あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、初春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から町政の推進に対し温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症との戦いの一年であり、また、その中においても感染力対策を講じながら、いかに地域の経済を停滞させることなく回していくのか、いわば各地域の知恵や工夫が試される1年でもあったのではないかと思います。

町といたしましては、新型コロナウイルス感染症により影響を受けている家庭や事業者に対し、どのような支援ができるのかをしっかりと検討した上で、「持続化給付金申請サポート事業」を

はじめ、「水道料金(基本料金)の減免」、「おもいやりチケット配布事業」、「魚価低迷等減収漁業者支援事業」などの各種支援策を実施しました。

また、社会全体が萎縮ムードとなっている状況の中で、新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解や「新しい生活様式」の実践を行いつつ、当町の状況をしっかりとらえながら検討を重ねた上で、7月の折腰内ビーチでのビーチサッカーフェスタを皮切りに、各種イベントを行いました。

初開催の「ウインターイルミネーション&エール花火」は、町内の事業者らで組織された実行委員会が、コロナ禍で沈みがちな雰囲気払拭し、町民の方々を元気にするため、そして応援するため、頑張れ中泊プロジェクトとして実施いたしました。

11月2日から11月29日まで行われた宮越家「離れ・庭園」の一般公開には、遠くは熊本県、徳島県からもご来町いただき、28日間で3,110名という多くの方にお越しいただきました。宮越家を見学にいらした方は、それだけでお帰りにならず、併催させていただいた町博物館の企画展「宮越家資料&ステンドグラス」や、メバル膳をはじめとする食事の提供店舗、お土産等の買い物ができる店舗などを巡るスタン

プラリーにも参加いただいたようで、宮越家公開による相乗効果、波及効果も広く確認されております。

今年は、地域全体で最大の効果を得られる方策など、しっかりと考えた上で公開したいと思っております。

今後も観光資源の掘り起こしや磨き上げを行いながら、町の「光」を少しずつ増やしていくことで、交流人口・関係人口の増加につながり、わが町の強みである農業・漁業の特産品の消費や販路の拡大、新たな商品の開発等による所得の向上や、雇用の確保といった効果を生み出し、一次産業でしっかりと食べていけるまちづくりを進めていきたいと考えております。

また、今年は世の中の仕組みが、がらりと変わり始める年になるのではないかと考えております。昨年9月に発足した菅内閣では、デジタル化を推進するためのデジタル庁の設立が掲げられており、「事務処理システムの統一」による国と各自治体との連携の迅速化、「マイナンバーカードの普及促進」による健康保険証や免許証との統合など、利便性の高いデジタル社会の構築を目指しているものと推察しています。

新型コロナウイルス感染症対策として、三密を避けながら教育を受けられるオンライン教育のため、当町も機器

などの整備を実施しましたが、今後も取り組みを進めていきたいと思っております。行政手続きや企業活動のデジタル化が進むことで、働き方も変化していきます。自宅にいながら仕事を行う「在宅勤務」や「テレワーク」と呼ばれるものがそれです。実際に職場の拠点を首都圏から地方に移す大手企業の動きも報道されています。東京一極集中の現状が解消されると、首都圏では混雑の解消、地方では人口減少問題の解消や経済の活性化など、双方にメリットがもたらされると考えています。

これら社会の変化や国の動向も注視しながら、「大地の恵と海の幸」を活かした一次産業でしっかりと食べていく持続可能なまち、町民の皆様が安心して楽しく暮らせるまちをめざして、これからも日々の公務に取り組みで参りますので、今後とも町政運営に對しましてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りし、新年のごあいさつといたします。

町の福祉向上と 発展に全力



中泊町議会議長
長利 司

新年おめでとうございます。
町民の皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また平素から町議会への深いご理解と町議会活動に対する温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
昨年を振り返りますと、我が国をはじめ世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大し、今後の動向もまだまだ分からない状況にあります。町民の皆様におかれましては、感染予防対策をしっかり行なっていただき、健やかに過ごしていただくよう祈念するとともに、一日も早い収束を願うものです。
しかしながら、当町では明るい話題もございました。昨年の10月には着工から19年を経て中泊町の国道339号と、つがる市車力町の鯨ヶ沢蟹田線を結ぶ県道「五所川原車力線」が完成し、



10月20日に津軽令和大橋とともに開通いたしました。これを機に利便性向上と、様々な交流促進が出来るものと期待しております。また、11月の宮越家「離れ・庭園」の一般公開では、三千人以上の方々がおいでになり、小川三知の傑作であるステンドグラスが、そして宮越家庭園が、百年の月日を経て、多くの人々の前に姿を見せました。中泊町にこのような素晴らしい文化財があることを再認識するとともに、広く公開できましたことは、中泊町のこれらの観光文化面の振興において明るい希望がもてるものと期待しております。

さて、町議会では、昨年の11月に知事を囲む行政懇談会において、「次世代を担うスマート農業の普及推進について」を強く要望いたしましたところですが、我が町のみならず全国的な問題となっている過疎化と少子高齢化による人口減少は、農業の後継者不足につながっております。地方において将来にわたる農業の担い手を確保するためには、未来技術を活用した省力化を可能とする「スマート農業」を確立することが重要であると考え、県の支援等を要望して参りました。
また、議会改革のひとつとして議会を広く町民に公開し、より開かれた議会を推進するために行う議会会議中継のライブ配信に加え録画配信も行う予定といたしました。
私ども町議会議員は、町民の代表として、果たすべき役割と責任を自覚し、活発な議会活動を通して、皆様の声を町政に反映してまいります。また、町民福祉の向上と町政発展のために議員一丸となり全力を尽くす所存でございますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、この新しい年が皆様にとりまして、素晴らしい年となりますよう心から祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

- | | | | |
|---------------|--------|----------------------|--------|
| 中泊町副町長 | 横野 彰 吾 | 中泊町固定資産評価
審査委員会委員 | 佐藤 恭 一 |
| 中泊町教育委員会教育長 | 米塚 鈴 子 | 中泊町農業委員会会長 | 松坂 龍 美 |
| 中泊町選挙管理委員会委員長 | 田中 彰 一 | 中泊町消防団団長 | 成澤 清 志 |
| 中泊町代表監査委員 | 葛西 昭 文 | | |